

科目区分	専門分野	授業科目	看護学概論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 看護と健康の概念及び看護の対象となる人間を理解し、看護の果たすべき機能と役割を理解する。</p> <p>目標: 1 看護の主要概念を理解できる。 2 健康の概念を理解できる。 3 看護の対象を理解できる。 4 看護の機能と看護師の役割を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 看護の概念	16	1 看護の本質 1) 看護の定義 2) 看護の構成要素 (1) 人間 (2) 健康 (3) 環境 (4) 看護 2 看護の歴史 1) 看護のおこり 2) 家庭での看護 3) 宗教による看護 4) 職業的看護 5) 看護の専門化 3 看護の役割と機能 1) 看護ケアについて 2) 看護実践とその質保障に必要な要件 3) 看護の役割・機能の拡大 4 看護理論の分類 1) 大理論 2) 中範囲理論 3) 小理論 5 看護理論の変遷 1) ニード理論 2) 相互作用理論(人間関係論) 3) システム理論から全体理論へ 4) ケアリングの理論(看護の対象との協働) 6 さまざまな看護理論 1) ナイチンゲール 2) ヘンダーソン 3) オレム 4) ウィーデンバック 5) M.ニューマン	
2 看護の対象	4	1 統合体としての人間 1) 人間の「こころ」と「からだ」 2) 生涯発達しつづける存在 3) 人間の「暮らし」の理解 4) 看護の対象としての家族・集団・地域	
3 健康の概念	4	1 健康とは 1) 健康の定義 2) 健康の概念の変遷	

		<p>3) 健康観と看護実践</p> <p>(1) 遺伝的要因</p> <p>(2) 環境</p> <p>(3) 社会的要因</p> <p>(4) 個人の生活習慣</p> <p>(5) 心理状態</p>
4 看護における倫理	3	<p>1 看護における倫理</p> <p>1) 看護実践における倫理問題への取り組み</p> <p>(1) 看護の本質としての看護倫理</p> <p>(2) 医療をめぐる倫理原則とケア倫理</p> <p>(3) 倫理的課題に取り組むためのしくみ</p> <p>2) 保健・医療・福祉チームの必要性</p> <p>3) チームにおける看護の役割</p>
5 看護の提供のしくみ	2	<p>1 サービスとしての看護</p> <p>1) 「看護とはなにか」の3つの視点</p> <p>2) 3つの視点の相互作用</p> <p>2 看護サービス提供の場</p> <p>1) 看護サービスの担い手とチーム医療</p> <p>3 保健・医療・福祉サービス提供における看護の役割</p> <p>1) 医療施設における看護</p> <p>2) 地域における看護</p> <p>3) 継続看護</p>
	1	試験
評価方法		筆記試験、レポート課題等
テキスト		<p>医学書院 基礎看護学〔1〕 看護学概論</p> <p>現代社 看護覚え書 -看護であること 看護でないこと-</p> <p>日本看護協会出版会 看護の基本となるもの</p> <p>新日本法規 看護六法</p>
参考資料		必要に応じて適宜紹介する。
履修上の留意事項		<p>予習・復習をして授業に臨むこと。</p> <p>提出物は提出日時を厳守すること。</p>
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	看護における基本技術
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 看護技術の概念を理解し、看護実践における共通基本技術を習得する。</p> <p>目標: 1 看護実践における看護技術の基本的な考え方を理解できる。 2 感染予防に必要な知識と基本技術を修得できる。 3 創傷管理に必要な知識と基本技術を修得できる。 4 コミュニケーションに障害のある人への対応を理解できる。 5 看護における教育に必要な知識と技術を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 看護技術の概念	2	1 看護技術の概念 1) 看護技術とは 2) 看護技術の特徴 2 看護技術の基本原則 1) 安全・安楽・自立・個別性 2) 看護技術における安全・安楽の意義 3 看護技術を適切に実践するための要素	
2 感染予防の技術	15	1 感染防止の基礎知識 2 標準予防策(スタンダード・プリコーション)の考え方 3 標準予防策の実際 ※1 1) 手指衛生の種類 (1) 手洗い (2) 手指消毒 (3) 手術時手指消毒 2) 個人防護用具(PPE)の取り扱い 3) 環境対策 4) 感染経路別予防策 (1) 飛沫予防策 (2) 空気予防策 (3) 接触予防策 4 洗浄・消毒・滅菌 1) 医療器材の取り扱い 5 廃棄物の取り扱い ※1 6 無菌操作 ※1 1) 清潔・汚染とは 2) 滅菌物の取り扱いの基本 (1) 滅菌包装の開き方 (2) 鑷子の取り扱い・滅菌物の受け渡し (3) 滅菌手袋の着用	
3 創傷管理の技術	4	1 創傷処置の基礎知識 1) 創傷 2) 創傷治癒のための環境づくり 2 創傷処置 1) 術後一次縫合創の処置とドレーン創の処置 2) 創洗浄と創保護 3) テープによる皮膚障害 4) 包帯法 3 褥瘡予防 1) 褥瘡予防の基礎知識 2) 体圧分散ケア	

4 コミュニケーション	4	1 コミュニケーション障害への対応 1) コミュニケーション障害がある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3) コミュニケーションに障害がある人への対応
5 指導技術	4	1 看護における教育 1) 看護における教育の意義 2) 教育の目的 3) 教育の効果を高める因子 4) 指導のプロセス (1) 学習ニーズのアセスメント (2) 指導計画と実施 (3) 指導の評価 2 集団指導の基礎 1) 集団指導と個別指導 2) 集団指導の方法
	1	試験
評価方法		筆記試験、レポート等
テキスト		医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 患者教育のポイント
参考資料		必要に応じて適宜紹介する。
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考		※1は演習を行う。 単元2 感染予防技術の演習では、手洗い・手指消毒・個人防護用具の取り扱い・無菌操作(滅菌手袋の着用・鑷子の取り扱い・滅菌物の受け渡し)を行う。 単元4 コミュニケーションはコミュニケーション論を土台として、コミュニケーションに障害をもつ人への対応を学ぶ。

科目区分	専門基礎	授業科目	日常生活援助技術 I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 対象の日常生活を整えるための環境調整、活動と休息、衣生活に関する看護技術を習得する。</p> <p>目標: 1 環境調整の援助に必要な知識と技術を習得する。 2 活動・休息の援助に必要な知識と技術を習得する。 3 衣生活の援助に必要な知識と技術を習得する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 環境調整技術	8	1 環境調整技術の基礎知識 1) 療養生活の環境 2) 病室の環境のアセスメントと調整 2 環境調整技術の実際 ※1 1) ベッド周囲の環境整備 2) 病床を整える	
2 活動・休息援助技術	16	1 姿勢・活動に関する基礎知識 1) 姿勢 2) 日常生活動作 3) ボディメカニクス 4) 体位の種類と特徴 5) 姿勢を保つこと・身体を動かすことの意義 2 活動の援助 ※1 1) 体位変換 2) 移動 3) 移送 3 睡眠・覚醒の基礎知識 1) 睡眠の種類 2) 睡眠制御のメカニズム 3) 睡眠障害の症状と要因 4 睡眠・覚醒の援助 1) 環境調整 2) 睡眠習慣の調整 3) リラクゼーション	
3 衣生活の技術	5	1 衣生活の基礎知識 1) 衣服を用いることの生理的・心理的・社会的意義 2) 被服気候 3) 衣類の着脱 2 寝衣交換の実際 ※1 1) 和式寝衣 2) パジャマ	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート		
テキスト	医学書院 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版		

参考資料	
履修上の 留意事項	<p>予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。</p>
備考	<p>※1は演習を行う。 単元1 環境調整技術の演習では、ベッドメイキング・リネン交換を実施する。 単元2 活動・休息援助技術の演習では、体位変換・保持、移乗介助、歩行・移動介助、車いす・ストレッチャーでの移送を実施する。 単元3 衣生活の援助技術の演習では、和式寝衣・パジャマの寝衣交換を実施する。</p>

科目区分	専門分野 I	授業科目	日常生活援助技術 II
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 対象の日常生活を整えるために必要な食事・排泄に関する看護技術を習得する。 目標: 1 食事の援助に必要な知識と技術を習得できる。 2 排泄の援助に必要な知識と技術を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 食事の援助技術	15	1 食事の基礎知識 1) 食事の意義 2) 食事の援助に必要なアセスメント (1) 栄養状態 (2) 摂食における姿勢・動作 (3) 咀嚼・嚥下機能 (4) 食欲 (5) 食生活およびその変更に対する認識 3) 食事の種類と形態 4) 食事が低下している患者の初期把握 2 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法 (1) 中心静脈カテーテルの管理 3 食事援助の実際 ※1	
2 排泄の援助技術	14	1 排泄援助の基礎知識 1) 排泄の生理的・心理的・社会的意義 2) 排泄機能とメカニズム 3) 排泄行動 4) 排泄に異常のある患者の初期把握 2 排泄援助の実際 ※1	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート等		
テキスト	医学書院:基礎看護学〔3〕 基礎看護技術 II 医学書院:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考	※1は演習 単元1 食事の援助技術の演習では、食事介助・経鼻胃チューブの挿入・経管栄養法による流動食の注入を行う。 単元2 排泄の援助技術の演習では、尿器・便器の使用と導尿・浣腸を行う。		

科目区分	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅲ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 対象の日常生活を整えるために必要な清潔に関する看護技術を習得する。 目標: 1 清潔の援助に必要な知識と基本技術を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 清潔の援助技術	29	1 清潔援助の基礎知識 1) 清潔の生理的・心理的・社会的意義 2) 皮膚・粘膜の構造と機能 3) 清潔援助の効果 2 清潔援助の実際 ※1 (根拠に基づいた目的・方法・手順・留意点) 1) 整容 2) 入浴・特殊浴槽・シャワー浴における介助 3) 全身清拭 4) 洗髪 5) 陰部洗浄とオムツ交換 6) 手浴 7) 足浴とフットケア 8) 口腔ケア	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考	※1は演習を行う。 清潔援助技術の演習では、全身清拭・洗髪・陰部洗浄とオムツ交換・足浴・口腔ケアを行う。		

科目区分	専門分野	授業科目	看護を展開する技術
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 科学的根拠に基づいた看護実践における基本技術を習得する。 目標: 1 看護過程の考え方と展開の方法を理解できる。 2 理論に基づく看護過程の展開を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 看護過程の考え方と展開方法	10	1 看護過程の概念 1) 過程のもつ意味 2) 問題解決過程とは 3) 看護過程を学ぶ上で必要な基本概念 4) 看護過程と看護理論の関係 2 看護過程の構成要素 1) アセスメント (1) アセスメントの定義 (2) アセスメントの目的 (3) アセスメントのプロセス ① 情報収集 ② 情報の整理・分類 ③ 情報の解釈 2) 看護診断 (1) 看護診断の定義 (2) 看護診断の目的 (3) 看護診断の優先順位の決定 3) 計画立案 (1) 計画立案の定義 (2) 計画立案の目的 (3) 計画立案のプロセス ① 目標設定 ② 対策立案 4) 実施 (1) 実施の定義 (2) 実施の目的 (3) 実施のプロセス ① 対象の状態の確認と対策の調整 ② 説明の同意 ③ 実施と対象の反応 5) 評価 (1) 評価の定義 (2) 評価の目的 (3) 評価のプロセス ① 目標達成度の判断 ② 目標の達成度に影響した要因の考察 ③ 今後の看護の方向性 ④ 看護過程の各段階への追加・修正 3 看護記録 1) 記録とは 2) 看護記録の構成 (1) 基礎情報 (2) 看護計画	

		(3) 経過記録 ① 叙史的記録 (PONR、フォーカスチャーティング) ② 経過表 (フローシート) (4) 看護サマリー (5) クリティカルパス 3) 看護記録の管理 (1) 記録管理の意義 (2) 記録管理の実際
2 看護過程の考え方と展開方法	20	1 ゴードンの機能的健康パターンとは 2 ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程 1) アセスメント 2) 看護診断 3) 計画立案 4) 介入 5) 評価
評価方法		筆記試験、レポート
テキスト		医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I 医学書院 NANDA-I 看護診断 メディックメディア 看護がみえるvol.4 看護過程の展開
参考資料		必要に応じて適宜紹介する。
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考		ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程では、事例を用いて看護過程を展開する。

科目区分	専門分野	授業科目	ヘルスアセスメントⅠ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: ヘルスアセスメントにおける基礎的知識と技術を習得する。 目標: 1 ヘルスアセスメントの必要性とその方法が理解できる。 2 バイタルサイン測定の技術を習得できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 ヘルスアセスメントの目的・方法	9	1 ヘルスアセスメントとは 1) ヘルスアセスメントの目的 2 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1) 問診 2) セルフケア能力のアセスメント 3 全身状態・全体印象の把握 ※1 1) 身体の計測(身長・体重・腹囲) 2) 全体の概観 4 心理・社会状態のアセスメント	
2 バイタルサイン測定の実際	20	1 バイタルサインの観察 ※1 1) バイタルサインとは 2) バイタルサインの観察の目的 3) 脈拍の観察の実際 (1) 脈拍のアセスメント (2) 脈拍の測定方法 4) 呼吸の観察の実際 (1) 呼吸のアセスメント (2) 呼吸の測定方法 5) 体温の観察の実際 (1) 体温のアセスメント (2) 体温の測定方法 6) 血圧の観察の実際 (1) 血圧のアセスメント (2) 血圧の測定方法 7) 意識の観察の実際 (1) GCSとJCS	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、技術試験		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。		

備考	※1は演習を行う。 演習では、身体計測・バイタルサインの測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)を行う。
----	--

科目区分	専門分野	授業科目	ヘルスアセスメントⅡ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: ケアにいかすフィジカルアセスメントを実施するための基礎的知識と技術を習得する。</p> <p>目標: 1 器官・系統別のフィジカルアセスメントの方法が理解できる。</p> <p>2 フィジカルアセスメントの進め方や適切なアセスメントにつながる考え方を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 フィジカルアセスメントの基本技術	20	<p>1 呼吸器のフィジカルアセスメント ※1</p> <p>1) 自覚症状、呼吸器疾患に関連した他覚症状・徴候の確認</p> <p>2) 胸郭の視診・触診</p> <p>3) 呼吸音の聴取(聴診)</p> <p>4) 胸部の打診</p> <p>5) 確認すべき検査所見</p> <p>6) 事例における呼吸器系のフィジカルアセスメント</p> <p>2 循環器系のフィジカルアセスメント ※1</p> <p>1) 自覚症状の確認</p> <p>2) 循環器系の視診・触診</p> <p>3) 聴診</p> <p>4) 事例における循環器系のフィジカルアセスメント</p> <p>3 腹部のフィジカルアセスメント ※1</p> <p>1) 自覚症状の確認</p> <p>2) 腹部の視診・聴診・打診・触診</p> <p>3) 事例における腹部のフィジカルアセスメント</p> <p>4 筋・骨格系のフィジカルアセスメント ※1</p> <p>1) 自覚症状の確認</p> <p>2) 関節可動域の観察</p> <p>3) 徒手筋力テスト</p> <p>4) 関節可動域測定・徒手筋力テストから ADL をアセスメントする</p> <p>5) 事例における筋・骨格系のフィジカルアセスメント</p> <p>5 神経系のフィジカルアセスメント ※1</p> <p>1) 自覚症状の確認</p> <p>2) 運動機能の評価</p> <p>3) 感覚機能の評価</p> <p>4) 反射</p> <p>5) 脳神経とその機能</p>	
2 フィジカルイグザミネーションの実際	9	1 フィジカルイグザミネーションを用いた初期把握のための情報収集と解釈 ※1	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト 参考資料	<p>医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I</p> <p>医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版</p> <p>メディックメディア 看護がみえる③ フィジカルアセスメント</p>		

履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備考	※1は演習を行う。 演習では、フィジカルイグザミネーションの基本的な手技を行う。またフィジカルイグザミネーションの実際には、事例をもとに、フィジカルイグザミネーションを用いて初期把握のために必要な情報収集と解釈を行う。

科目区分	専門分野	授業科目	診療に伴う援助技術Ⅰ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位(30 時間)	開講年次	1 年次
<p>目的: 安全に与薬をするための基礎的技術を習得できる。</p> <p>目標: 1 与薬に必要な基礎的知識と与薬における看護の役割を理解できる。</p> <p>2 安全な与薬の方法を習得できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 与薬の技術	29	<p>1 与薬の基礎知識</p> <p>1) 薬剤使用の目的と主な方法・剤形</p> <p>2) 薬物動態</p> <p>3) 看護師の役割</p> <p>(1) 薬物に関する法律と看護師の法的責任</p> <p>(2) 安全な与薬の原則</p> <p>(3) 薬の管理</p> <p>2 与薬の援助</p> <p>1) 経口与薬・口腔内与薬</p> <p>2) 吸入</p> <p>3) 経皮的与薬</p> <p>4) 直腸内与薬</p> <p>5) 点眼</p> <p>6) 点鼻</p> <p>7) 注射</p> <p>(1) 皮内注射</p> <p>(2) 皮下注射 ※1</p> <p>(3) 筋肉内注射 ※1</p> <p>(4) 静脈内注射 ※1</p> <p>(5) 点滴静脈内注射 ※1</p> <p>8) 採血 ※1</p> <p>3 輸液・輸血管理</p> <p>1) 輸液・輸血の種類と取り扱い方法</p> <p>2) 輸液・輸血の管理方法</p> <p>3) 輸液・輸血の副作用(有害事象)の観察</p> <p>4) 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い ※1</p>	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート等		
テキスト	<p>医学書院 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ</p> <p>医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版</p>		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	<p>科学的根拠をもと安全安楽な看護技術を提供するために解剖生理学、薬理学の知識が必要になる。予習・復習して授業に臨むこと。</p> <p>演習等、積極的な姿勢で参加すること。</p>		
備考	※1は演習を行う。		

科目区分	専門分野	授業科目	診療に伴う援助技術Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位(30 時間)	開講年次	2 年次
<p>目的: 検査の目的および検査に必要な援助技術と、呼吸循環を整える看護に必要な基本的知識・技術を習得する。</p> <p>目標: 1 検査の目的および検査に必要な援助技術を習得できる。 2 呼吸・循環を整えるために必要な知識・技術を習得できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 検査における援助技術	6	1 検査・診察における看護 1) 検査・診察における援助の目的 2) 検査・診察における看護師の役割 2 検体検査における援助の実際 1) 尿検査 2) 便検査 3) 喀痰検査 4) 血液検査 5) 穿刺 3 生体検査における援助の実際 1) 画像検査 2) 内視鏡検査 3) 心電図 ※ 4) 生体情報の持続的モニタリング	
2 呼吸・循環を整える技術	23	1 呼吸・循環を整える援助の実際 1) 呼吸を楽にする体位 2) 効率のよい呼吸法 3) 酸素吸入療法 ※1 4) 吸引 ※1 5) 排痰ケア ※1 6) 吸入 ※1 7) 雾化 8) 末梢循環促進ケア ※ 2 人工呼吸器を装着している人、気管切開をしている人の看護 1) 一般状態の観察 2) おこりやすい合併症	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート等		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 別巻 臨床検査 医学書院 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 メディックメディカ 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		

履修上の 留意事項	科学的根拠のもと安全安楽な看護技術が提供できるために、解剖生理学などの人体の構造・機能について、予習・復習し授業に臨むこと。 演習等、積極的な姿勢で参加すること。
備考	※1は演習を行う。 1 検査における援助技術、2 4)血液検査は、診療に伴う看護技術 I で採血の演習を行う。

科目区分	専門分野	授業科目	日常生活援助技術の統合
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	1年次
目的: 対象の状態に応じた看護実践における基本技術を習得する。 目標: 1 対象の状態に応じた日常生活援助技術の適応過程を理解する。 2 日常生活援助技術の適応過程の展開を習得する。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 対象の状態に応じた日常生活援助技術の適応	10	1 看護実践の成り立ち 1) 看護実践の3部構造モデル 2) クリティカルシンキング 3) 倫理的配慮 4) リフレクション 2 対象の状態に応じた日常生活援助の選択 1) 日常生活援助に必要な情報の収集と整理・解釈・判断 2) 援助計画の立案 (1) 援助計画の立案時のポイント(安全・安楽・自立) (2) 援助する上での留意点 4) 援助の実施 (1) 初期把握と実施可否の判断 (2) 倫理的な状況判断 5) リフレクション (1) 実施経過・結果 (2) 実施経過・結果の振り返り (3) 今後の援助の方向性 (4) 援助計画の追加・修正	
2. 日常生活援助の適応過程の展開	19	1 日常生活援助の適応過程の展開 ※ 1) 援助に必要な情報の収集と整理・解釈・判断 2) 援助計画の立案 3) 援助の実施 (1) 環境調整技術 (2) バイタルサインの測定 (3) 清潔・衣生活援助技術 (4) 活動・休息援助技術 (5) コミュニケーション技術 4) リフレクション	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート、実技試験		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔2〕基礎看護学実習Ⅰ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 学研 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント メディック メディア 看護がみえる vol.4 看護過程の展開		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		

履修上の 留意事項	既習の日常生活援助技術をよく復習し、実施できるようにしておくこと。 積極的に授業に参加すること。
備 考	授業内で実施する技術は「日常生活援助技術」で既習のもの。 「日常生活援助の適応過程の展開」は、事例をもとに、日常生活援助の計画、実施(実技試験)、振り返りを行う。

科目区分	専門分野	授業科目	看護を展開する技術の統合 I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	2 年次
<p>目的： 対象の状態に応じた看護を実践するための基礎的知識と技術を習得できる。</p> <p>目標： 1 対象の状態を判断し、必要な看護技術を選択できる。</p> <p>2 対象の状態を考慮した個別性のある計画を立案できる。</p> <p>3 対象の反応を捉えながら実施し、評価できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 事例を用いた看護技術の適応過程の展開	14	<p>1 対象に応じた看護技術の選択</p> <p>1) 看護技術の選択に必要な情報と解釈・判断</p> <p>2 計画の立案 (日案)</p> <p>1) 対象の日程 (生活) に合わせた計画の立案</p> <p>2) 安全・安楽・自立を目指した援助</p> <p>3 計画に基づいた実施</p> <p>1) 実施可能かの判断</p> <p>2) 対象の反応に応じた実施</p> <p>3) 安全・安楽・自立への配慮</p> <p>4) 個別性を踏まえた効果を上げるための工夫</p> <p>4 評価</p> <p>1) 目標の達成度の判断</p> <p>2) 目標の妥当性、方法の選択・個別性を考慮した計画の妥当性</p> <p>3) 実施の妥当性 (実施の振り返り)</p> <p>4) 看護計画の修正</p>	
	1	試験	
評価方法	試験、レポート課題、グループワーク発表等		
テキスト	<p>医学書院 臨床看護学総論</p> <p>医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ</p>		
参考資料	<p>医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版</p> <p>医学書院 看護過程に沿った対象看護 (病態生理と看護のポイント) 第5版</p>		
履修上の留意事項	<p>予習・復習をして授業に臨むこと。</p> <p>提出物は提出日時を厳守すること。</p>		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	看護を展開する技術の統合Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次
<p>目的：臨床判断を行うための臨床的思考過程を理解する。</p> <p>目標：1 対象の初期把握ができる。</p> <p>2 対象の状況を解釈できる。</p> <p>3 看護計画を立案し、実践できる。</p> <p>4 自己の実践を省察し改善できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 臨床判断の考え方と展開方法	4	1 対象の初期把握 1) 対象の背景・関係性 2) 気づき (1) 予測 (2) 初期把握 2 対象に起こっている状況の解釈 1) 推論パターン (1) 分析的思考 (2) 直感的思考 (3) 説話的推論 3 看護計画の立案と実践 1) 行為 2) 結果 4 省察 1) 行為中の省察 2) 行為後の省察	
2 事例を用いた臨床的思考過程	10	1 初期把握 2 状況の解釈 3 看護計画の立案と実践 4 省察	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート課題、グループワーク発表等		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔4〕 臨床看護学総論 医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ		
参考資料	医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 学研 看護過程に沿った対象看護(病態生理と看護のポイント) 第5版		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。		
備考			

基礎看護学実習Ⅰ

〔2単位 60時間〕

目的

多様な看護の場を知り、地域での暮らしを見据えた看護を展開するための基礎を理解する。

目標

- 1 人々が暮らしている環境および生活の場が理解できる。
- 2 対象に応じた健康管理が行われていることが理解できる。
- 3 人々の生活の場には、多様な看護の場があることを理解できる。
- 4 看護学生として適切な行動をとり、積極的に学ぶ姿勢を身につけることができる。

実習期間及び実習時間

- 1 実習期間 1年次 9日間

基礎看護学実習Ⅱ

〔2単位 60時間〕

目的

療養生活を送る対象を理解し、健康状態に応じた看護の基本技術を習得する。

目標

- 1 対象の健康状態に応じた日常生活援助を実施できる。
- 2 対象を尊重した態度で接することができる。
- 3 看護師に必要な資質を高める意義が理解できる。
- 4 看護学生として適切かつ責任ある行動をとり、積極的に学ぶ姿勢を身につけることができる。

実習期間及び実習時間

- 1 実習時期・期間 1年次 8日間

基礎看護学実習Ⅲ

〔3単位 90時間〕

目的

対象の健康の回復・保持・増進を目指し、必要な看護を展開するための基礎的能力を習得する。

目標

- 1 対象に応じた看護過程を展開できる。
- 2 対象と援助関係を築くことができる。
- 3 対象に関わっている多職種との連携および支援について理解できる。
- 4 看護学生として適切かつ責任ある行動をとり、積極的に学ぶ姿勢を身につけることができる。

実習期間及び実習時間

- 1 実習期間 2年次 12日間